

三峰川のオオキンケイギクの生息範囲 と防除

研究者 江川 晴菜, 小松 友大, 西村 拓海, 林 優衣, 宮澤 遙

指導教員 大石 英一 先生, 倉石 典広 先生,
小山 由美子 先生, 深堀 奈苗 先生

要旨 現在, 日本には環境省によって2004年6月に公布, 2005年6月に施行された外来生物法が存在する. この法律の目的は特定外来生物による生態系への被害を防止し, 生物の多様性の確保に寄与することを通じて, 生物保護に資すること. そのために, 問題を引き起こす海外起源の外来生物を特定外来生物として指定し, その取扱いを規制し, 特定外来生物の防除等を行うこととされている. 我々は, 身近にある三峰川で見ることができるオオキンケイギクに注目した. 本種は, 在来種や生態系へ影響を及ぼすことが問題視されている植物である. そこで三峰川における本種の分布を調べてみると, 分布状況をひとつにまとめられているものはなかった. そのため, 分布図を作成し三峰川における本種の生息範囲を明らかにしようと考えた. また, 本種について調べているなかで本種には, 繁殖力が旺盛で大きな群落を形成するという特徴があり, 種子のほか根茎でも広がり, 根ごとしっかりと抜き取る必要があるということを知った. そこで我々は, 本種が群落を形成する原因が根にあるのではないかと考えた. そのため, 実際に群落が形成されていた伊那市役所周辺の三峰川河川敷, 三峰川橋上流で掘削調査を行った. その結果, 三峰川流域の広範囲で, 本種の分布が確認され, コドラート法を用いた調査により, 道路沿いに多く生息していることが判明した. また掘削調査により, 2個体の根のつながりがあることが確認された. これらの結果から, 本種は温度の低い地域に生息しづらく, 草丈が低く, 乾燥した河原によく見られることが考えられる. また根の掘削調査より, 本種の根は繋がっていることが示唆されたため, 駆除の際は駆除した個体の周辺も確認する必要があると考える.